

令和5年度第2回山梨県教員育成協議会

I. 日時 令和5年9月22日（金）午前10時00分～

II. 場所 山梨県防災新館3F

III. 出席者

委員7名（敬称略）

河野公紀、長谷川千秋、廣田健、堀川薫、上田真司、小林智、白倉明美
事務局17名

市川 敏也（教育監）

初鹿野 仁（教育監）

小林 洋一（教育庁総務課長）

岩出 修司（教育企画室長）

小池 孝二（義務教育課長）

萱沼 恵光（高校教育課長）

鷹野 美香（特別支援教育・児童生徒支援課）

山田 芳樹（保健体育課長）

丹澤 一浩（義務教育課 人事管理監）

渡邊 英裕（高校教育課 指導監）

飯島 清樹（総合教育センター 所長）

小尾 俊彦（総合教育センター 次長）

上村 泰子（総合教育センター 研修指導課長）

伊藤 宏紀（教育企画室 働き方改革推進監）

三枝 徹（教育企画室 室長補佐）

佐野 淳一（教育企画室 主幹）

細倉要太郎（教育企画室 主査）

IV. 傍聴者などの数 0人

V. 会議概要

- 1 開会
- 2 教育次長あいさつ
- 3 報告
- 4 協議
- 5 その他

○司会
開会

○教育次長

先生方、本日はご多忙のところ第2回山梨県教員育成協議会にご出席いただきましてありがとうございます。

前回の協議会では、令和4年度の各部会の取組状況ですとか、令和5年度の取組内容の提案と共に、教員育成指標の改定に伴います活用ガイドの作成の方向性が確認されたところでございます。

本日は前回会議のご意見を踏まえまして、各取組の一層の充実に向けてご協議をいただく予定でございます。特に育成指標活用ガイドにつきましては、本日素案を提示させていただきます。活用ガイドの有効な活用によりまして、教員一人一人が育成指標に掲げる各ステージにおいて、必要となる資質能力を身につけることができるようご意見を賜りたく存じます。

委員の皆様には本日もそれぞれのお立場から忌憚のないご意見を賜りたく、よろしくご意見申し上げます。本日もどうぞよろしくお願いいたします。

○司会
議長選任についての説明

○議長

それでは早速報告と協議に入らせていただきます。

まず次第に基づきまして、3番の報告、第1回教員育成協議会の概要につきまして事務局から説明をお願いいたします。

○事務局

改めましておはようございます。本日よりよろしくお願いいたします。座って説明させていただきます。

委員のお手元に第1回育成協議会の議事録がおりますでしょうか。

すでにそれぞれの委員の皆様には、こちらのほうの確認を依頼しているところでございますけれども、詳しく本日説明はいたしません、また見ていただいて気になるような点がありましたら、まだ公開はしておりませんので、こちら事務局のほうにご連絡いただければと思います。特になければ今後公開というふうに進めさせていただきます。

内容ですけれども、前回の会議、それぞれの委員の皆様から非常に活発なご意見をいただきました。それぞれの3つの部会の取組について説明をさせていただいたわけですけれども、例えば養成部会であれば指導主事の母校の訪問。これは非常に有効ではないかと、

かなり好意的なご意見も出たと記憶しております。さらには、採用・人事部会については採用試験の実施について。こちらのほうも建設的なご意見をいただきました。育成・研修部会につきましても、先生になろうフォーラム。こちらのフォーラムの在り方や内容、非常に参考になるご意見をいただきました。本日はそれを基に育成フォーラム、なろうフォーラムの協議をしていただくということになっております。

最後の活用ガイドにつきましても、様々委員の皆様からご意見をいただきまして、本日素案という形ですけれどもご提示できるところまで来ております。ぜひ本日前回の協議会を踏まえて、またご意見をいただきたいと思いますと思っております。

それでは簡単ですけれども、第1回教員育成協議会の概要を振り返らせていただきました。よろしく申し上げます。

○議長

はい、ありがとうございます。

内容につきまして、お気付きの点がございましたら事務局のほうへお願いしたいと思います。

それでは協議に入らせていただきます。

まず、各部会の取組の進捗報告をいただきたいと思います。まず養成部会からお願いいたします。

○養成部会 部会長

よろしくお願いいたします。それでは進捗状況を報告させていただきます。

資料の1という冊子になります。1ページ、2ページが養成部会の資料になっております。

できるだけポイントをかいつまんでご説明申し上げます。

令和5年度の取組、2つございます。先ほど事務局からも話がありましたが、指導主事が母校へ行って教員の魅力を語るというものにつきましても、これは1ページの下の方のところにございますが、ポチの2つ目のところで、10月20日に甲府昭和高校で実施をする予定で現在調整を進めております。みらいフォーラム、それから山梨大学の教職課程に係る講座の指導主事の担当等につきましては、下の指導状況をご覧ください。特にここでご説明を申し上げたいのは、1の丸の4つ目、教育実習、教育ボランティアを活用した魅力発信のところについてお願いいたします。各学校に対して、学生に教員のやりがい等を伝えることができるような教育実習、教育ボランティアを意識して実施するように周知するというので、今進めておりますが、特にここでは教育ボランティアについて進捗状況を報告したいと思います。下の取組状況の下から2つ目に、教育実習、教育ボランティアについては、現状と課題を把握することを目的としたアンケートを実施云々と書かれておりますが、特に教育ボランティアにつきましては、高等学校はかなり遅れている

状況とっております。そこで3ページ、4ページにございますが、7月の中旬に県立高校の管理職を対象にアンケートを取りました。教育ボランティアに関するものが1番から6番になっております。このアンケートを基に、こちらで現状それから課題を整理いたしまして、このあとワーキングに進めていきたいというふうに考えております。また、アンケートのほうはお時間のある時にご覧いただければと思います。

1ページにお戻りください。取組状況の下から2つ目のポチに戻りますが、結果をまとめましたので、今後は大学の先生方とワーキングを実施させていただきたいというふうに思っております。その中で特にボランティアの有効な活用について検討を進められればというふうに思っております。

2ページのところをご覧いただきまして、ここが一番上のところに拡大養成部会のワーキングについて書かれておりますが、今日も先生方にお越しいただいておりますが、9月から10月を目途に日程調整を終えてワーキングをお願いできればと思っております。今日この場でいただいたご意見等も踏まえて有意義なワーキングができればというふうに思っておりますので、ぜひご協力をいただければと思っております。特に今回報告でもあるのですが、教育ボランティアについて、ご意見をいただきたいものとしましては、高等学校における教育ボランティアを拡大するにあたって、大学の現状と大学生のニーズなども含めて、様々な課題があるというふうに承知しております。ここでは様々な立場の先生方がお集まりですので、教育ボランティアの拡大をするにあたって考えられる課題であるとか、あるいはアイデアなどがありましたらこの場でお聞かせいただければ幸いだというふうに思っております。

そのほか、細かいところにつきましては、2ページのICT教育、それから期間採用研修等につきましては報告書に書かせていただいたとおりです。

以上となりますが、よろしく願いいたします。

○議長

養成部会からの説明をいただきました。

特に教育ボランティアは、報告書にもございます教員のやりがい等を伝えるという面もございますし、さらには場合によっては携わっていただく業務内容などによっては、教員の働き方にも資するような取組ではないかというふうに考えています。こういった教育ボランティアを積極的に活用していただくことというのはすごく重要ではないかと考え、部会のほうからもぜひこの拡大にあたってのご意見をいただきたいと。小中学校ではさらにこんなこともやらせたい、やってもらいたい、あるいはもっと期間についてもどうのこうのというのがもしございましたらば、ぜひうまく学生に来ていただくような形で進めていければと思っておりますので、ちょっとボランティアについてご意見をいただきたいというふうに思っております。

現場の先生方、ちょっとお話をまず伺えればと思うんですけども。委員、このことについてどうでしょうか。

○委員

そうですね。まったくおっしゃるとおりで2面あると思うんですね。やはり学生さんが子供たちと直接接触の中で教員の魅力を感じてもらう点。それともう1つは、学校現場は働き方改革という部分でも、きめ細かな指導をしていく上でも多くの支援が必要です。その意味で志を持った学生がサポートしてくれることは非常にありがたい。具体的に言えば、例えば定期テスト前の放課後学習会や部活動へのサポート、部活動においては土日も含めてなかなか地域の協力者が得られない中で、大学生が参加してくれると非常にありがたいなと思っています。そのほか特別支援学級も複式でやっていると個別な対応をしていかなければならず、人手がいくらあっても足りない状況がありますので、そこへ教員を十分に付けられるかという、そういう状況は厳しいんですね。その点でニーズはあると思います。ぜひよろしくをお願いします。

○議長

はい、ありがとうございます。

委員、ちょっとお伺いしたいのは、実際お見えになるボランティアの方の頻度と言いますか、例えば週にどのぐらいとかというのはあるんでしょうか。

○委員

私の学校は甲府からちょっと離れていたり、本校の卒業生も少なかったりということで、募集はしているんですけども少ないのが現状です。去年は1名、理科で来てくれて、非常に有益でしたね。もっともっと来てもらいたいのですが、ここの課題にあるように地理的なものとかが障壁になってくるんでしょうね。

○議長

ありがとうございます。高校のほうで、委員いかがでございましょうか。

○委員

そうですね、趣旨自体は大事ですし、委員がおっしゃったようにいろんなサポートが必要な体制ではあるとは思いますが。これ見てみますと、やはり部活動ですとか、放課後ですね、授業の中身に入っていくとなるとなかなか難しいかなと思いますが、実際には模擬試験ですね。これは学校外のことなんですが、模擬試験の監督はPTAのほうで実施をしていますけれども、卒業生ですね、うちの場合は前身校の卒業生ですけど、そちらの生徒さん、学生さんが監督をするとか、そういうふうなことはあるので、それをまた日常生活

の中に入れるという手もあるのかなとは思っています。ただ、やはりこの課題にあるように負担が増えるんじゃないかというね・・・

○議長

受け入れる側ということですね。

○委員

そうです。受け入れる側でいろんな指導や対応をどうしていったらいいのかというところが、まだまだ浸透していないところがあるのかなと。だから成功事例など、中学校なんかやられているようなので、そういう事例を少し紹介するようなこともあっていいのかなというのは思います。あとはまた個人情報の扱いですとか、その辺のことも少し心配なところがあるので、このアンケートのとおりではないかと思えます。ですから部活動とか、放課後学習、そんなようなところ。あとは課題研究と書いてありますが、こういうことも学生さんで研究されている方もいらっしゃるの、そういうのを入れていくのもいいのかなと思っています。

以上です。

○議長

ありがとうございます。委員、いかがでございましょうか。

○委員

支援学校では各校の立地にもよりますけれども、郡内のほうでは都留文科大学の学生さんが、やまびこ支援学校、ふじざくら支援学校のほうにコロナ前からそれぞれ学校のニーズと相談しながら、学生さんがボランティアという形で関わってきているという実績があると思います。このほかにも行事等ですね。そういったものにも過去はお手伝いいただいたこともあるかと思えます。例えば本校ですけれども、本当に学生のボランティアさんをお願いしたいなと思う場面がありまして、昨年1事例なんです、山梨学院大学の体育の教員免許が取れる課程が今度できたというふうに聞いているのですが、そちらの学生さんに一般的に言う競歩大会、「歩こう、走ろう、記録会」というのですが、そちらのほうにお手伝いをいただいたりということで、いろんな条件を整えば活用の仕方はたくさんあると思いますし、そのほかにも本校でもお願いしたいなという、そういったニーズはございます。いろいろ整えていって、そういった経験が教職に就いた時に生かせるなという実感は持っております。

○議長

ありがとうございます。

今の制度の枠組みで制約があったり、あるいは運用に制約があったりする場合には、どう改善していけばいいかというところが、このワーキングの中で検討していただけることだと思いますので、ぜひ具体的にいろいろございましたら吸い上げさせていただきたいと思います。よろしくお願いします。

一方で、送り出しているその大学側では、先生方が関わっていらっしゃる範囲で、課題ですとか、効果とか、あとこういったことがあればいいなというご要望がございましたらお願いしたいと思いますが。まず、委員から。

○委員

よろしくお願いします。

学生の様子からお話しさせていただきますと、高校を志望している学生というのがいますので、そういう方にとっては非常にありがたい活動になるだろうというふうに思っております。一方で大学としましては、小学校の教員不足を何とかしたいという気持ちもありますので、高校に全部注力することはできなくて、バランスよく高校の志望を強く思っている方に絞って、このボランティアを小さく始める形があるのかなというふうには思っています。そして効果であったり、できること、これまで教育ボランティアを義務教育を中心にやってきている中で思うことは、最近始めていることなんですけれどもICTのサポートですね。まだまだ本当に研修を始めているような段階ですので、試行段階なんですけれども、学生のほうがICTは強いですので、そういったところを使っていただければ高校の先生方も助かるのかなというふうに思っております。調べ学習なんかもできるのかなというふうに思っております。それからこれまでの小学校、中学校のほうで学生たちがボランティアに行っていますと、大変来てくれて助かりますというお声をいただいています。ですので、まだ高校では実績がないので手間が増えるんじゃないかというご心配があるかとは思いますが、どうか若い人の力を借りるぐらいなお気持ちでやっていただければいいのかなというふうに思います。あまり指導することはないかなと思います。

それから高校生の影響ということもちょっと考えてみたんですけれども、高校に大学生が教育ボランティアで入ってくる。その方々は教員志望であるというような方と、高校生が接触することで、高校生が教員になりたい、あっ、こういう先輩がいるんだというふうに思って、教員になりたいというような流れも作っていければいいのかなと。高校生と大学教育ボランティアの学生が話す機会。私はこういうふうなことで教員を目指しているよみたいなお話をするような時間がもし設けていただければ、ちょっとハードル高くなっちゃうかもしれませんが、すごくウインウインになるかもしれないなということを聞いておりました。

以上です。

○議長

どうもありがとうございます。それでは委員。

○委員

本学では一度都留高校との間で少し実施したことがございますが、有益であったにもかかわらず今一つちょっと進まないところも実はあるという感じです。学生にとっては体験させていただくことがすごくいい意味を持っていて、成長はするんですけども、先ほど受け入れ側の先生からあったように、受入態勢を確実にしないとかなり問題が起こるのではないかなと思っております。都留の場合小中で、特に学校教育学科などでは必修科目としてそこに入らせていただいています。その場合担当教員、それだけを担当する教員を3人置いてやっているんですね。ですので、トラブルが起こった時に対応しやすいんですが、今のところそこにいらっしゃる方は小学校中学校の担当の先生が中心になっています。小・中では人間的に考えてそういうふうな感じでしょうかね。特に専任の担当教員を置いていない特別支援学校でうまくいっているのは、特別支援の課程を担当している先生が、自分の研究、それから学生の教育ということが一致する場合にうまく行っているという形はあります。ですので、指導の在り方と言いましょかか、そのところをうまく両方で考えていくということが、これから進めていく上で大事かと思えます。

2つ目なんですけれども、実は小中でも今すごく困っているんですけども、段々少子化が進んでおまして、受け入れてもらっている学校が遠くになっていくということになると、将来的にはそこに行くのに行って帰ってくると約1日掛かりということも起きるかもしれないということです。都留市内の学校以外に個別に実はうちでは学生ボランティアに行くこともあるんですけども、それは高校なんかでやっているのがときたまあったり、あるいは児童館等で特になんですけれども、それはやっぱり4年生になってしまうのは授業の空き具合で、比較的4年生が自分の就職との関係で空けられるので多いです。ただ近年、大学のほうでは文科省の指導があつて、取得できる単位条件が1年間の履修可能単位条件がすごく厳しく縛ってきている関係がありまして、難関の空きコマ数が増える一方で必修単位などが4年間に散らばってしまうので逆にとりづらくなるのではないかと予測もあります。

それからニーズで言いますと、学生に聞いてみると中学校がそうなんですけれども、圧倒的に授業のことをやりたいということがございます。実習もなかなか指導するときそういうことをやるのは大変なもので、かなり準備をしなければいけないので、この辺の齟齬も考えないと本格的な取組ができないかなと思っています。授業で言いますと、取得を希望している科目、例えば国語をとっていても、さっき言った授業支援なんかで入ったり、あるいは試験前のお手伝いをしたりすると、必ずしもここだけでないものを見なければいけないということもあつて、これも若干学生との間に齟齬があるかなと思います。これは学校ボランティアと言っているのかどうか分からないんですけど、去年なんかだとうちの大学も絡んでやっている地域行事「つる子どもまつり」で、高校生が大学生といっしょに

地域行事を造ったりしています。地域行事ですので、大学が主催しているのではなく協力しているだけなのですが、大学の教員もこうした地域行事にかかわって学生の子ども理解・地域理解を深める指導をすることもあります。これは高校生もものすごく喜んでやっていただいて、もうほぼうちの大学生のほうがむしろ振り回された感じで、そう考えますとお互いが知り合いということではこのようなことをやってみたり、あるいはこれはもう梨大のほうがずっとだと思いうんですけれども、現職の先生が来られた時に地域教材と言いましょうかね、そういうプロジェクト型の学習をやるときに学生がそこに加わるというようなことが今までは起こっています。

以上です。

○議長

ありがとうございます。

現場の声、送り出す大学側の声から、本当にいろいろご示唆いただきましたけれども、部会長一言お願いします。

○養成部会 部会長

貴重なご意見をありがとうございました。

なかなか私どももつかみ切れていない課題、特に大学の状況につきましてはかなりわかってきた分もありますので、その辺りをまたワーキングに向けてご相談させていただきたいと思います。ぜひ引き続きよろしくをお願いします。ありがとうございました。

○議長

はい、ありがとうございます。それでは次の部会の報告に移りたいと思います。

6ページでございますが、採用・人事部会になりますね。

それでは部会長お願いします。

○採用・人事部会 部会長

それではよろしくお願いいたします。6ページからの内容につきまして説明をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

前回の時に報告をさせていただきましたが、この採用・人事部会としては人材確保に関すること、そして教員選考検査に関することということで、この2点を行わせていただいております。取組内容のところにつきましては、まず説明会等につきましては、その6ページにお示しさせていただいているとおり、10月の11日からの山梨大学の説明会を皮切りに、それぞれの大学等で行うということ。それから今年度については、やはり全国に広げてオンラインでの説明会を実施しながら、限られた大学、実績のある大学だけでは

なくて広げていきたいというようなことで、そこに重点を置きたいというふうに考えております。

続いて7ページ、8ページをご覧くださいと思います。まず育成部会と山梨県で学校の先生になろうフォーラムの実施ということ。それから情報発信。そして小学校の確保事業。こちらについては第1回の時にも奨学金のことをいろいろアドバイスをいただきましたので、そこについても説明会の中でのチラシだけではなく、今年度の受験実績のあった大学等にも広げながら周知を図っていきたくて考えております。山梨のこの取組が他県でも奨学金の補助ということにつながっておりますし、国のほうでもそれを検討しているようなニュースも入ってきております。そういう意味で、またこれが効果的に進むよう行っていきたくて考えております。また、選考検査に関する改善のところにつきましては、7月の時にもお示しさせていただきましたが、選考方法に関する改善というところで早期化。それから大学3年生における一次検査の前倒し。それから教育課題の対応というところについて、英語に関する内容のところについては導入済みですが、今年度一次検査につきまして一般教職教養をマークシート方式に改善させていただきました。実際辞退者がだいぶ減ったというようなところもございまして、少しそういうところでも改善が図られているのではないかとということ。それから情報発信に係る工夫・改善、その他というところでまたお読みいただければと思います。

また、この部会等の中で少しアドバイスをいただきました。新採用の先生方に採用検査のところはどういう状況だったのかということについてもアンケート調査をかけさせていただきました。義務の関係の新採用の先生ということで、180名の方から回答をいただいております。やはりこれを見ると学生が92名。それから本県で期間採用等を行っていた先生が61名。その他、他県が7名という形で、多くの先生、審査員の先生方は学生さんだったりとか、それから期間採用でやっている先生方、本県に由来のある先生方が多く受験していただいているということ。それから教員を志望した理由としては、やはり子供が好き、教えることが好きということで、先ほどの学生ボランティアのところもありましたが、そういう連携につながっていくのではないかとということが言えるかというふうに思います。

それからもう1点。志望した時期というところでアンケートを取らせていただいたのですが、これは採用された方に限定されるのですが、高校入学前が68名、高校生のときは61名ということで、この数字を見ても180名のうち約130名の方々が、もう高校時代までにある程度教員になりたいという形で志しているということが言えるということです。本県で実施しております「みらいフォーラム」は高校生も対象にしているという形の中では、こういうことがつながっていくということ。それからそのボランティアを通して様々な力のある先生、魅力ある先生に出会って行って、そういう形で希望を固めていただ

くということが、採用というところにもつながっていくのではないかとということがアンケート結果からわかりました。

それからもう1つ。教職以外の就職活動というところもアンケートをさせていただいたのですが、これを見ていただくと180名のうち、129名が教員選考検査のみということで、つまりそういう志望のある方々はある程度一本に絞って受けていただいている。それにあと他県の公立の選考検査を受けた方が29名ということで、それだけで160名の方々がそういう形で受けているというような形になりますので、そういうところからも早い段階で教員への魅力だったり、山梨の強みであったり、山梨での教員のやりがいというところを周知し、発信していく。そしてそれを感じていただくということが必要ではないかと考えております。

また、その中で前回のところでは選考検査の前倒しというようなところについてのご意見をいただきましたので、今回このアンケートからも教員を志望している方、それからもうそこに絞っている方はある程度受験いただける。やはりその中で民間と迷っている方を、いかに取り込んでいくかということがこれからは大事だというふうに考えております。やはり大学のお立場、それから中学高等学校の立場、市町村の立場で、そういう迷っている方々を取り込むためには、方策としてどんなことが考えられるかというところでご意見、アドバイスをいただければと思います。よろしく願いいたします。

○議長

はい、ありがとうございます。

教員を志望される方というのはかなり年齢の低い時から強い思いがあって、一途な方もいらっしゃる。一方で教員を志望していたけれども、もしかすると途中で変わっちゃうという方もいるんですかね。今のアンケートは実際に教員になられた方のアンケート。そうすると、よそに流れちゃった方というのをどうやって教員に取り込んでいくか。先ほど委員からも大学生と高校生が触れ合う機会の話もあって、有効だというお話もいただきましたけれども、どんなふうにこれから志願者を増やしていけばいいのかなというところをご意見をいただきたいというのが部会長の今のお話でございます。

これについて委員いかがでしょうか。

○委員

アンケートの結果が非常に参考になりました。採用になった方は、やはり強い意志を持って教職を目指しているということが本当によくわかりましたので、やはり議長がおっしゃったようにその周辺の方、迷っている方、そういう方をどのように取り込んでいくのが問題かなと思いました。でも以前に比べると本当に高校生に対してのいろんなアプローチをしているので、これを今後も続けていくということと、もう1つあります。実は私の教え子で教育ボランティアをしていた子がいました。とても教員になってほしいなと思う

子でしたが、その子は教員にならなかったんですね。なぜボランティアをしていたのに、なぜ他の職業を選んだのかということ、ちょっとまたあとでゆっくり聞いてみたいかなんて思ったんですが、ボランティアをしたりすることで学校の大変な部分とか、これはちょっとできないやとか、例えば保護者対応で苦勞している先生と一緒にになるとか、そんなふうなことがあったりして、もしかしたら学校の大変な部分を知ってしまっていたかなことだとしたら、強い意志を持っている子だったらそこを乗り越えていこうと思うかもしれないけど、強い意志がないと言うか、ゆらいでいる子については、そのボランティアとか教育実習でどのように学校が受け入れてやっていくかということがすごく大事なかなと思います。小中学校は学習支援員さんを各校に複数配置しています。市内も多い学校は5、6人いますので、支援員さんと同じように一緒にやってもらうというようなことで、教室への入り方は割合容易になっていると思っっているんですが、受け入れる学校にも、確かに負担があるかもしれないけど、そこでその学生さんの芽を伸ばすようなことができればいいかなと思います。

○議長

ありがとうございます。

先ほどの養成部会の中でもありました受け入れの仕方と言いますか、その受け入れ方、ご示唆ございましてありがとうございます。

そのほか、特にご指名させていただきませんが、先生方からいかがでございましょうか。

○委員

迷っている人への方策というのは大学でも非常に悩ましい問題で、ずっと考えているところです。アンケートを取ったり、インタビューをしたり、いろいろなことをしているのですが、迷っている方の中には、はたから見ると先ほどの委員のお話ではないんですけど、どうしてこの人が教員にならないんだらうというような方もいます。そういう人をターゲットに働きかけていくといいのかなというふうに思っっているんですが。どうもそういう人たちの話を聞いていると、教員に対してすごく高い理想みたいなものを持っていて、目標が高いと言えるんです。それに対して自分は見合っていないというようなことがありますので、大学の授業の中でもう少し自信を付けてあげる。それで大丈夫というふうに言っただけあげるような声掛けが必要ですし、また地域の学校のほうでも教育ボランティアに出っったときに、すごいねというふうに、いいところを見つけて伸ばしていただけると、その方々も、あっ、私で大丈夫なのかなというふうに思っていけるのかなというふうに思っっているのがまず1つです。

それから迷っている人たちは教員になることが決して嫌ではないんだけど、やはりほかも見えないとわからないというふうに思っっている方もいます。そういう方たちにど

う働きかけるかというのちょっと私は今ないんですけども、どうもいずれは帰ってくるよとか、そんな思いの人もいるようです。

あとは、給与待遇面をよくしていただければ、こんなにいいことはないわけですね。その中で、ただ今の現状であっても、給与は企業に比べるといい部分があったりとか、待遇でもいい部分があったりという、そういうところをわかりやすく数値化してお示しするというようなこと。意外と学生たち、まだ情報が、正しい情報がキャッチできていないように思っています。

それから離職率などは、教員に関してはさほど悪くないですよ。企業が非常に離職率高いですので、そういったところもちゃんと言っていくべきかなというふうに思っております。以上です。

○議長

どうもありがとうございます。はい、どうぞ、委員。

○委員

もうほぼ委員の言われたことなんですけれども、やっぱり学生が一番教員に最後なるかならないか迷っている人についてみると、実習が決定的に大きなものになりますね。それでもうほとんど民間企業に行こうと思っていたんですけども、実習に行ったらやっぱり、まあもともと入る子は大体教員になりたいから来ているので、ああ、こういう喜びがあるなと感じると、それから一転してこれまでやっていた一般教養みたいなものを全部捨てて教職の勉強を始めるという子もたくさんいます。そういう意味で考えてみると、実習だとかボランティアで学校との関係を増やしていくというのは、とてもいいことだと思います。付け加えて言うならば、まだそんなに多くはなっていないんですけども、地域のことを学んだり、地域の中で受け入れるという経験があると、その地域に残る確率は高くなっていくと思います。残念ながらまだ都留文科大学でそれが明確に出ているわけではないんですが、前任校の話ばかりして悪いんですけども、同じように全国から来ているところなんですけれども、地域の中で教材開発を一緒にしていたり、それから先生方の中に面倒見がいい人が大学に来たりするということが、ものすごい田舎の大学だったので、あったので、そうすると全国から集まってもそのまま居ついてしまう。自分のフィールドはここだと思えるような活動がそれに結び付いているといいかなと。うちの今の大学でもさっき言ったこども祭りなどやっていた子は、そのまま地元をやめてうちにくることがあるので、そういう意味では地元の中での活動だとか行事、それと実習の関係が結び付いているのいいかなと思います。

一方、逆に実習に行ったら嫌だと思える人も何名かいて、これはごく少数なんですけれども、やっぱり働き方の問題を一番多く持っていて、その中で先生方が一生懸命やればやるほど

大変になるというのが見えると、ちょっと僕は続かないんじゃないかなという人も多いと思います。

あと、うちは卒路支援を10年ぐらいを対象にしてやっていて、教員が2名ほど特任が付いてやっているんですけども、その中で辞めた事例はそんなに一般企業に比べると圧倒的に少ないんですが、調べてみると一番大きいのはやっぱり人間関係ということがかなり大きいようなので、多忙化の解消ということが大きな原因ではないでしょうかね。お金のほうは、率直に言うと普通よりいいですし、それから何と言ってもお金であまり動くタイプの人というのは先生方にいないので、まあいるのかもしれませんが、我々の周りではどうしてというような大変な仕事をお金とは関係なくやっている先生が圧倒的に多いので、やりがいがあるようなことをしているということと。そういう話を若干でも聞いてしまうと、ああ、やっぱり教員を辞めようかなと思ってしまうので、この間もちょっとお話ししましたが、特に山梨一生懸命多忙化の解消をやっていますから、その辺を説明会の時に強く言っていただくことと、研修も充実していますというような話をするのは、ちょっとたぶん固いまじめな学生が多い教員養成系では圧倒的に効くと思いますので、ぜひそこを強く宣伝していただければなと思います。

以上です。

○議長

どうもありがとうございます。では委員。

○委員

私も今、委員のお話を伺って、今年教育実習に来た学生さんたちに校長面談があって、教員っていいよ、いいよとすごく勧めてはいるんですけども、やっぱり選択肢の1つとして考えるということで、経験をいろいろしたうえで考えたいという学生さんがほとんどでしたね。ただ、教育実習を受け入れる側としては忙しい中で新たな担当の先生がいて、やっぱり多忙化なので、さらに多忙化になっているというマイナス分がいろんな言動に出てしまうというところがあるんですね。だから、例えば考え方としては教育実習を受け入れる学校側として、やはり教員全体で育成していくんだという意識をどこかでしっかり持つような機会を作らなければいけないのかなと。我々の子供たちの未来を作っていく学生さんたちがいるんだというところを、もう少し、できるかどうかわかりませんが、教育実習に来る前の受け入れをしっかりする、県でもそのような方向性を持っていくということもすごく大事なのかな。ブラックは直してもらって、ブラックは直さなければいけない。これは絶対なんです。ブラックで辞めちゃう人も大勢いますから、選択肢の中では。そういうところをもう少し入れてくるのがいいのかなということと。あとはやはりボランティア、先ほどお話を聞いている中ではボランティアとか学校の行事とかに、大学生と教育学部の学生さんと、例えば高校生が触れ合うような機会をもう少し作っていくかということ

ですね。あと高校生と大学生って一緒の空間にいと、割といろんなことを話すんですね、我々が考えている以上に。そういう機会を少しずつ作っていくということも大事なのかなと。ボランティアだよということじゃなくても、そのいろんな行事をアイデアとして作っていくのも1つ手なのかなと思いますね。

はい、以上です。

○議長

ありがとうございます。受け入れ側の意識というところでは、ちょっと私ども何か先生方と一緒に考えていかなければいけないなというふうに思います。ありがとうございます。では、部会長、ご意見いただいた中で総括をお願いします。

○採用・人事部会部会長

貴重なご意見ありがとうございました。

やはり学生さんたちにとっても、出会いということが本当に大事であるということ。その出会いをいかに創出するかということ。そして教員、現場の先生方がやりがいだったりとか、プライスレスな仕事であるというところを本当に伝えていくということが大事であるということをご意見としていただきましたので、そういうことが生きるように、こちらのほうでも様々これから説明が始まりますので、いただいたご意見を参考にさせていただきながら、学生の皆さんに少しでも山梨県での魅力が伝わるように、こちらのほうでも努めていきたいと思ひます。貴重なご意見ありがとうございました。

○議長

どうも先生方ありがとうございました。

引き続きまたいろんなご意見、随時賜りたいと思ひます。よろしくお願ひ申し上げます。

それでは続きまして、9ページでございますね。

育成・研修部会の説明に移ります。

ちなみに、フォーラムにつきましては、これはこのあと議事でまた協議させていただくということでございます。まず、それ以外のところの説明をお願いいたします。

○育成・研修部会 部会長

よろしくお願ひいたします。まず、育成・研修部会からの報告としまして、1つめは「改定やまなし教員等育成指標」に基づく令和5年度の研修計画について。もう1つが令和6年度の研修企画についてでございます。

本日ご協議していただきたいこととしましては、今年度の現在までの取組をご覧いただく中で、来年度の研修会に対するご意見、ご要望を承りたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

では9ページ。初めに令和5年度の研修計画についてです。今年度のこれまでの研修会に関する数値はあとの時間のある時にお読みいただきたいと思います。ここでご覧いただきたいのは9ページの(1)番、改定やまなし教員等育成指標に基づいた研修会の充実のところ。まず今年度育成指標に基づいて研修会の一覧を整理したことで、受講者がつきたい資質能力に沿った研修会を選択しやすくなりました。また、指標の改定に伴う研修会の充実という点で2点ご紹介いたします。

次の10ページをご覧ください。1つは新校長、新教頭研修会についてです。こちらは、民間コンサルティング会社を講師に迎えたり、端末機器を使った共同編集などを組み入れたりすることで、育成指標にありますマネジメント力、アセスメント力、ファシリテーション力の向上を図るプログラムを導入しております。もう1つ、特別な配慮や支援を必要とする児童生徒への対応に関する研修につきましても、多様な教育ニーズへの対応や、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携の進め方などを学ぶ研修会など、受講者のニーズに応えることができるように整理いたしました。校長先生による研修会の受講奨励のおかげで、受講希望者が前年度より増加しました。一方で、受講希望者が集中した研修会などにつきましては、希望に添えないこともありました。現在令和6年度の研修会について検討を始めておりますが、その中で解決案を考えております。

続きまして、令和6年度の研修企画についてです。同じ10ページの下をご覧ください。令和6年度の企画に際しましては、今年度の反省を生かしてまいりますが、今年度は特に来年度に向けて指標の改定に伴う部分としまして、その黒い点が3つありますけれども、改定やまなし教員等育成指標の重点項目にあります。こちらのほう、例えば教員主体の授業から児童生徒主体の授業への転換、またすべての子供と学ぶ機会やチャンスを潰さない教育、といった重点項目を中心とした研修を組み立てたいと思っております。また、ICTの活用と教育デジタルトランスフォーメーションをより推進する研修、そして令和3年答申で示された「新たな教師の学びの姿」の実現を具体化する研修を軸に計画しております。

続きまして、初任者研修につきまして14ページをご覧ください。ここ数年初任者の増加に伴って様々な工夫をしております。研修の体制としまして、そこにあります留意点1から5までを実施しております。令和6年度につきましても引き続き実施していきたいと考えております。こちら15ページをご覧ください。それぞれ1番から5番まで継続する形で行いたいと思っておりますが、5番はまだ検討段階です。今上の表を見ていただきますと校外研修日数と校内研修時間というものがあります。校外研修日数はセンターに来て実習をするというものになります。校内研修時間は、それぞれの学校内で担当の先生が指導することになっておりますが、一般の初任者は240時間に対して、教職大学院を経験している方は150時間。期間採用経験者は90時間というような形で、弾力化を図っております。

これについて、ここは数年前からやっていることですが、来年度に向けてその期間採用者の対象、一番下の案というところですが、対象を少し変えて、より学校の

実態に即して、また初任者の実態に合わせた研修会を組み立てるという方法はないだろうかということで現在検討しております。

例えば、中学校で期間採用を経験した先生が小学校で採用された場合、これまでの規定ですと校種が違うのでフルに240時間校内で研修していただきますが、いろいろな校長先生方から、もう学校で十分仕事をしているから、学校の実態に合わせて少し弾力的にしてももらえないだろうかといったご意見をいただきました。そういったことも踏まえながら現在検討を進めております。このことにつきましてもしご意見いただけたらと思いますが、本会議ではこれらの令和5年度の状況、それから令和6年度の企画に関して、今後の教員の資質向上や主体的な学びに関してセンター研修会のご意見、ご要望を承りたいと思います。どうぞよろしくお願いたします。

○議長

はい、ありがとうございます。

研修につきましては、ちょっとかなり広くはなりますけれども、5年、6年の研修の計画ですとか、あるいは企画の内容ですね。そして今、初任者研修についての説明があったところでございます。

必要な視点ですとか、あるいはご質問でも結構でございます。先生方からご意見、ご質問を賜りたいと思いますが、ございましたらお願いいたします。

どうぞ資料のほうをお目通しいただく時間を作っていただきながら、気付いた点がございましたらお願いをしたいと思います。部会長、あれですか、例えば具体的にはこういったところをちょっとご意見をもらえれば、もうちょっと絞ってのところがございませうか。

○育成・研修部会 部会長

ありがとうございます。令和6年度の研修会の企画を今ちょうど行っているところです。9月のところでは今年度の研修会の反省を所内で共有し、10月の中旬に再度来年度に向けて計画することになりますが、特に例えば現場の先生方、初任者や現場の先生方が見る中で、こういう資質能力をつけるような研修をしてもらえないだろうか。また大学の先生方におかれましては、初任者に対してこういう指導をしてもらえないだろうかという点がありましたらご意見をいただきたいと思います。お願いいたします。

○議長

はい、令和6年度の研修期間に関するところは10ページの下のところと、12ページの下からということでしょうか。

○育成・研修部会 部会長

はい。特に10ページの下のところ。

○議長

特に10ページの下以降ということですね。委員の先生方が今やっていることでも結構でございます。はい、どうぞ委員。

○委員

今年度希望が集中した研修、具体的にどのようなものがあるのか教えていただければ。

○育成・研修部会 部会長

ありがとうございます。希望が集中した研修としましては教育相談に関する研修です。こちらはほとんどの研修が定員よりも多く希望していただいたため、少し定員を増やしました。あとICTに関する研修会につきましても、こちら機器の関係で定員が少なかったのですが、これにつきましても、もう少し充実が図れるように考えています。

○議長

はい、ありがとうございます。今のようなご質問でも結構でございます。

○委員

関わっていいですか。今言われたように、やはりどちらも学校現場にとっては、教育相談の充実、それからICTを幅広く授業の中ですべての教員が使う。この対応が急務となっていて、各校でも校内研やOJTを通して実践しているところだと思います。さらに先進的で幅広い研修を教育センターで設定していただければありがたいと思っています。

もう1つは、やはり評価ですね、新学習指導要領の3観点に基づく評価が難しいんですね。新しいガイドラインの中にも示されていますが、必要性、妥当性が認められないものは見直していくことが求められています。そして公平性、説明責任のつく評価を、研修を通して身につけていかなければならないと思っています。

○議長

ありがとうございます。今の点についてぜひちょっとお願いします。

○育成・研修部会 部会長

ありがとうございます。評価に関しましてやはり受講者のニーズが高くて、教科に関する研修会で必ず評価について取り入れるようにしております。昔から言われている指導と評価の一体化ということもありますが、子供たちにどんな資質能力をつけたいのか。それをまず授業の中で具現化して、それに対して子供の反応を見る中できちんとそれが子供た

ちに身についたのか、それを1時間だけではなくて単元を通して見ていくというようなことも含めて、それぞれの教科で各指導主事が研修を企画・運営していきたいと思います。

ありがとうございます。

○議長

はい、ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

あとで活用ガイドのご案内がございます。研修の関係でございますので、活用ガイドを参考にさせていただきながら、その際に合わせてご意見を承ることも結構でございますので、よろしければ先に進ませていただきます。

それでは続きまして、「山梨県で『学校の先生』になろう！」フォーラムについてでございます。こちら、説明をお願いいたします。

○育成・研修部会 部会長

よろしくをお願いいたします。資料2の1枚めくっていただいた1ページ目をご覧くださいきたいと思います。こちら3つの部会、それから教育企画室すべて連携しますが、育成・研修部会から提案をさせていただきます。

今回第1回の協議会でご確認いただいた方向性を基に、さらに詳しい部分まで記載をしております。特に(8)の内容という部分につきましては、第1回の協議会で委員の皆様方にいただいたご意見を基に教育企画室と相談し、山梨の先生の魅力として25人学級や部活動の地域移行等について伝える第2部というものを新たに設定したいと考えています。こういった内容によって、多くの高校生が教員を目指し、教員養成系の大学へと進学してくれることを期待しております。

本日ご協議いただきたいことは、これらの内容は学校や大学生のニーズに果たして合っているのかということ。また先ほど2つの部会の時にご意見をいただいておりますが、現在大学の実施している高校生への働き方と齟齬はないかといったことを中心にご意見を賜りたいと思います。よろしくをお願いいたします。

○議長

はい、ありがとうございます。ここはよろしければ、ぜひ委員の先生方全員からご意見をいただければと存じます。提案通りでも大丈夫だよと、こういうお話でも結構ですのでお願いいたしたく思います。

いかがでございますでしょうか、先生方。ちょっと資料をご確認いただきましてお願いしたいと思います。では現場の先生方のほうから、委員どうですか、もしよろしければ。

○委員

このフォーラムにつきましては会を重ねるごとに充実したものになっていくと思います。せっかく大勢の人にここに入ってもらうわけですので、この教職を目指す皆さんへのメッセージとか、それから山梨で学校の先生をする魅力について、ぜひプラスのメッセージをシャワーのように降り注いでいただきたいなと思います。そして山梨県の大きな特色として、25人学級のことがありますので、このことをこうやってきちっと説明してくださるのは非常にいいことだと思います。それから部活動についても、今もいろいろやっていますが課題山積でなかなか進んでいかないところもあるんですけど、地域移行をこれからやっていくんだよということをわかるように説明していく、これも非常に大切なことかなと思います。また本年度新たな視点が入って大変いいかと思います。

以上です。

○議長

どうもありがとうございます。では、委員。

○委員

先ほどのアンケートにあるように、やはり一番大事なのが我々がこの前段階の小中学校の段階、すなわち、今の目の前にいる子供たちに日々充実した実践をしていくことが何よりも大事であると思います。フォーラムについても、非常に工夫しながらやっていただいて非常にありがたく思っています。ただ1点、連合総研の調査では、教員志望している学生が一番不安に思っていることは、時間外勤務が多く、土日や休日の出勤が多いことなんです。これが72%で、保護者対応や学習指導、教科指導を上回っているんですね。これは報道の影響が強いと思うのですが、山梨県として先ほど委員がおっしゃいましたけれども、25人学級であるとか、また部活の地域移行に向けてとか、そういう部分で努力していることを積極的に発信してもらいたい。それと同時に、学校現場の努力ではなくて、定数改善や処遇改善等についてきちっと働きかけをする中で実現をし、教員のウェルビーイングを向上させること、教員が生き生きと働ける環境を作っていくことが一番大事なかなと思っています。

○議長

ありがとうございます。では委員。

○委員

そうですね。私の場合は、まず質問なんですけれども、パネリストの方ってどういう方、どういう先生方を想定されているのかなということですが。

○育成・研修部会 部会長

パネリストは、この中で校長先生や義務教育課の人事担当にご協力をいただいています
が、基本的に教員になったばかりの若い先生方や、「こういうメッセージを参加者に送りたい」ということを裏付けるような選定を考えているところです。具体的なものはまだちょっとお答えできませんが、よろしくお願いいたします。

○委員

そのようにお願いします。やはり若い先生が生き生きとしているところで、疲れた方はちょっとまずいところがありますので、疲れていない方を選んだほうがいいです。

あと高校生とのグループ討議があるんですけどね。この中に、教師を目指していく大学生という方を、どういうふうな流れの中で目指しているのかというのを少し入れると、ワンクッション、なったばかりの人と、なるのを目指している人と、それからなろうとしている人という、その辺のもうワンランク、なんか今回というわけじゃないですけど、その辺のことをやるとまた違ってくるのかなと思います。この前全国のPTAの会議が仙台でありまして、その時にやはり学生さんがレジリエンスの話をしていたんですが、その学生さんはたまたま教員になりたいという方で、非常に明るい学生で、こんなことしているんですよ、だからこんなふうを考えて私はなろうと思って今目指しているんですよという、その途上の話というのがすごく高校生には効くのかなと、年齢が近いので。なった人っていうのはなった人なんですけど、それはどういうルートでなったのかということも必要なんですけども、少しそういう人を入れるとなにか流れができていくような、それは今年じゃなくてもいいんですけど、いいのかなと。だからグループ討議もちょっと変わってきてもいいのかな。ちょっといきなりは難しいことで、もうすぐ11月にやられるので、今後のこととして、ちょっとアイデアとしてもし次に可能であれば、そのワンクッションというのも大事かなと思います。

以上です。

○議長

はい、ありがとうございます。では、委員。

○委員

幾つか思ったことがありました。学校の先生になろうフォーラムを経て、実際に教員になった人というのは、いるということですよ。年数的には実績がありますか。

○育成・研修部会 部会長

まだ4年目なので、そんなには来てはいません。

○委員

やってなった方がいたら、またぜひそういう、なぜこれがどんなふうな意味を持って、自分がここに臨めたかなというようなことを聞いてみたいなのとも思いました。

今、委員がおっしゃったように、大学生などで教職課程で学んで教師になりたいと思っている、その話を聞きたい高校生もいるのではないかという、教員の前段階の話を聞くというのは本当にそのように思っています。そういう機会があるととても夢が広がったり、選択肢も広がったりするのかもしれないなというふうに思います。

それから、これとは直接関係なのかもしれないのですが、本当に夢があるという内容と共に、働く条件ですね。それをいつか聞く時があるのか。例えば給与面のこと、先ほど私は女性ですから仕事をしながら、育児をしながら仕事を続けられるのかとか、そういったことを考えながら職業選択をしてきたのですけれども、そういったことを聞く機会がなかったかなと。自分で自ら探すということもしなかったかもしれないのですが、もしどこかにそういった教員の魅力と共に、働きやすさとか、育児のそういう条件などもどこかでふれると、また違った視点でやってみようかなと思う学生さんも増えるのではないかという思いがしました。

最後にやっぱりこういう学生さんが山梨の魅力を感じられるように、私たちも現場の中でいろいろな形で学生さんを受け入れていきますので、私たちがその魅力を直に伝えられるように、学校の教職員と一緒に取り組んでいきたいなという思いを強くいたしました。

以上です。

○議長

ありがとうございます。では委員どうぞ。

○委員

長くこのフォーラムをやられていて、いろいろな取組だなというふうに思っております。パネルディスカッションの部分なんですけれども、パネリストの先生方、とても魅力的な先生方を集めていらっしゃるんですけど、私たちは卒業生がこの中に毎年名前が入っていてとてもうれしく思っているんですが、もしかすると高校生や大学生には、その魅力が見えないかもしれないので、今回メッセージ性のある方をパネリストで選びますというお話でしたので、広報段階でこの人たちがどんな人なのかというのがちょっと見えると、自分たちに近い世代の人、写真でもわかるのかもしれませんが、そういったメッセージですね。この人の話なら聞いてみたいなのというのは、やっぱりその人がわからないと思いつらいと思いますので、少しお手間にならない範囲で、この人たちがどんな人なのかというのがわかるような、簡単なメッセージなんかがあるといいなというのがまず1つです。

2つ目は、これは以前から何度か言っているので繰り返しになってしまうんですけど、パネルディスカッションのパネラーの発言というのは、なるべく練習しすぎず、自然な形でトークをお願いしたいというふうに思います。大学生は、あつ練習してきている

というのが見えてしまうと批判的に見ますので、そこのところはぜひ塩梅があるかと思えますけれどもよろしくをお願いします。

それからセミナー、第2部のセミナーのところなんですが、前回とテーマを変えていただきましたので、こういうふうにしていただくとリピーターが増えるかなというふうに思いましたので、とてもいいなと思った部分です。

あとはアンケートをされていたと思いますけれども、確かアンケートをされていますよね。はい、ありがとうございます。それでしたら結構です。

あとはブレイクアウトルームでのご意見が出ていますけれども、教師を目指す人、大学生の声を高校生が聞く、交流するというのはすごくよい取組だと思います。今年度も山梨大学のほうで、この学校の先生になろうフォーラムの後継版というか、高校生向け版というのを、「教員養成学部に行こう」みたいなのをやると思います。その時に、今年は急にこちらの学校の先生になろうフォーラムで教師を目指している人を入れるというのは難しいかもしれませんので、ご要望いただけましたら大学のほうでそこのところをうまくやっていきたいなというふうに思いました。

以上になります。

○議長

どうもありがとうございます。委員、お願いします。

○委員

はい、もう皆さんがまさに言ったところだと思います。特に2部はテーマを変えられてやっているというのは確かにいいと思いますし、それから何と言っても25人学級の話は圧倒的に教育に目を向けているというのがよくわかるので、これが入るととてもいいかなと思いました。もう皆さんがいろんなお話されて、これに付け加えるのはないので、ここで以上です。

○議長

ありがとうございました。委員に総括していただいたようで大変ありがとうございます。

今、具体的にフォーラムについてご意見を幾つかいただいております。例えば目指している人の声を、今年は無理かもしれないけれども入れたらどうかというお話ですとか、フォーラムきっかけで教師になった先生のご意見を伺いたいなど、こういった部分ですね。こちら紹介する機会があればと思いますが。あとは働く条件ですね。その働き方というか、その処遇というか、そういったものをどこかで知る機会があればいいなど、これが1つの機会なんじゃないかなというふうなお話かとも思います。さらにパネリストのお話もございました。ぜひせつかくそのメッセージ性のある人をやるのであれば、その広報段階からどういう人かとかをしっかりとPRするようにと。あとはパネラーを練習させないようにと。

こういうことも重要なご示唆でございます。こういったところについてぜひ部会長お願いいたします。

○育成・研修部会 部会長

貴重なご意見ありがとうございました。内容につきましては、これから検討していくものですので、今いただいたご意見をできるだけ反映できるような形。また今年できなくても来年に向けというようなこと。また先ほど委員もおっしゃったように大学との連携ということで、この部分は大学にお任せしたいなんていうことも含めてまた考えていきたいと思っております。ただパネラーにつきましては、先ほど委員がおっしゃっていた育児に関しては、たまたま去年育休、産休を経験した方がパネラーで、そういったこともお話を聞くことができました。今年またそういうことができればということを考えながら、また人選をご協力いただきたいと思いますと思っております。

練習につきましては、こちらもちよっとドキドキするので少し練習はさせたいのですが、でも基本的には打ち合わせの段階で、この人はどんなことをしゃべりたいなということや、またこの人にはどんなことをしゃべってもらいたいのかということにつきましては、センターのコーディネーターのほうがきちんと把握する中で、あとは自由に発言していただけるようにしてまいりたいと思っております。ありがとうございます。

○議長

リラックスして臨んでいただけるような雰囲気づくりをお願いしたいと思います。

ありがとうございます。

それでは協議の事項を進めさせていただきます。(3) 育成指標活用ガイドの素案についてでございます。事務局のほうから説明をお願いいたします。

○事務局

それではよろしくお願いたします。スクリーンの位置で申し訳ありません。ちょっと見やすいところに移動していただきなり、ご協力をお願いしたいと思います。

かなり悩みました。どんな形で表していけばいいかと。前回の会議で様々なご意見をいただいたんですが、このデジタル版というか、することで多くの方々に見ていただけるのではないかと。また汎用性も高く、今後につながるものになるのではないかとということで、素案ですけれどもご提示させていただきます。

まず、ホームページ等にこれを掲載するわけですけれども、一応パワーポイントをベースに作りまして、PDF等に直したものを掲載していきたいと思っております。本日は、本当はそれぞれ先生方に実際操作をしていただければよかったんですけれども、一応こんなような形だという概要をつかんでいただき、また細かい内容も今後事務局のほうにお伝えいただければなと思っております。

さて、今表紙というか、一番最初のトップ画面が出ておりますけれども、この左側と右側にそれぞれリンクが張っております。左側のほう、小さい字で申し訳ないです、手元にもありますけれども、左側のところで、まずは活用ガイドの赤文字ですけれども、『作成にあたり』というところがありまして、ここを最初クリックしていただくと、この活用ガイドというものがどういうものかというものをここで説明しています。特に、これまで皆さんからいただいたご意見で、この育成指標をさらに理解を深めていきたいんだよというふうなご意見がたくさんありました。さらに、この育成指標に基づく研修、どういうふうに研修とつながっているのかも知りたいんですよ。はたまた、活用ガイドの具体的な活用の場面も知りたいし、研修履歴の活用の参考にもしていきたい。そんなふうにありましたので、これらをすべて網羅できるようなものを考えていこうということで作ってまいりました。例えば、ここで育成指標についてさらに理解を深めていきたいという部分や、研修とのつながりということで、ちょっと活用ガイドの見方。実はこれからお見せしていくこのシートは、主にこの育成指標、この育成指標からそれぞれの育成指標の項目を詳しく説明する画面。さらにその画面のそれぞれのステージをクリックすることで、センターの研修と結びつく。さらに、そのセンターの一つ一つの研修を知りたいければ、センターのホームページに飛んでいくような、そんなふうな一連の流れを考えています。

では、その流れに従って説明をさせていただきますけれども。まずは改定のポイントというのがあったと思います。この改定のポイントもここにクリックできるような印しをつけておきましたけれども、例えば今回の改定のポイント、どういうふうなものが改定のポイントだったか。大きくこの2つが改定のポイントでした。いわゆる児童生徒主体の授業の転換とか、学ぶ機会のチャンス。これについて少し補足の説明を加えさせていただいているというのが、この改定のポイントのページでございます。さらには、この改定のポイントに山梨県が求める教員像とか、教員として必要な素養というのがありましたので、ここをまたクリックしていただくと、指標には茶色のこの部分しか書かれておりませんが、ここの山梨県が求める教員像。少しここをまた補足の説明をさせていただいて、山梨はこういうふうな教員が求められていますよということを最終的にこれにまとめてあります。こんなふうなページを作り、または教員として必要な素養、これもこの赤文字ですね、豊かな人間性と人権意識、またはコミュニケーション能力、これが育成指標にはここだけが書かれているんですけども、そこについてさらに少し補う形で説明を加えている、そんなページの構成で作っております。

また元に戻ります。ただいまのは改定のポイントのページですが、でははいよいよここからそれぞれの育成指標につなげて、そこからどういうふうに行くかということですのでけれども、やまなし教員等育成指標があったかと思いますが、例えば学習指導とか授業実践、学習評価、学級経営、またICTとあったかと思いますが。ここでそれぞれのステージごとに必要とされる資質能力が書かれていますが、大きく横の帯で見ていただきたい。例えば、これ学習指導の授業実践というところですよ。この大きな横の帯で1つシートを作ってみま

した。ここのシートのところで、ちょっとここ見たいよとクリックしますと、先ほどのシートに飛びます。ここで、この上にある第1、第2、第3ステージのこの文言は育成指標の文言です。そもそものこの授業実践において、その背景や現在の状況。さらに求められるものというところで詳しく説明を加え、先生方が、じゃあ私はこの第1ステージ、このところをもう少しどういふふうなセンターの研修とつながっているか見てみたいなというときには、ここをクリックしていただくと、これが実はセンターの研修の第1ステージがまとまっている表です。実はお手元に配っています、これと同じようなものが表紙にある、これはセンターの山梨教員育成指標に基づいた第1ステージの研修をすべて整理してあるものですが、この特に赤い部分ですね、研修会の名前と研修会の内容。ここを先生方非常に知りたいところだと思うんですね。例えば、先ほど授業実践で言うと、どういふセンターの研修がそこで用意されていますかというのがここでわかります。そのセンターの研修の番号も、何番の研修ですよというのもここに記しております。これがあることで、その先生が、じゃあ私はこの授業実践の研修でどういふふうなものを受けたいかと調べることができる。ああ、そうか、じゃあ私はちょっと教科の研修をもう少し深くやってみたいな。これ200番台にあるかなと。ここから本当はその研修だけが飛ぶようになればいいんですが、なかなか今度そういうふうにしていきますと、その後の手直しの関係でちょっとそこまでは限界がありまして、ここからはここにセンターの研修のマイページというページがあるんですけれども、センターの研修のマイページに飛べるようにしておきました。これはそれぞれの先生方が自分のマイページに飛べるんですね。ここで私のページに今飛んでいます。私のページ、それぞれの先生方が飛べるんですけれども、飛ぶとそれぞれの先生方の研修のページになりまして、ここで研修会の一覧が出てきますので、この研修会の一覧を見ることで、先ほどじゃあ私は何番の研修を見たかったなというふうに、例えば先ほど200番台の研修を見たかったなというのと、この200番台の研修のところ、もうこれ実は終わっている研修ですので締め切っていますけれども、これ締め切る前であれば当然今のところ何人が募集していて、どういふ内容でというのがわかります。詳しい実施要綱もここで実際ダウンロードすることができる。ですので、育成指標の文言の解説を読みながら、ああ、ここでこういふふうな研修を受けたいなと思うと、最終的にその研修の実施要綱までたどり着くことができるようにリンクは張っておきましたが、なかなかスムーズなところまでは難しいですけれども、こんなところでセンターの研修と育成指標をつなぐ役割というところは何とか実現ができてと言うか、目指したところなんです、こんなふうになっています。

ちょっとまた戻りますが、これがこの育成指標のすべての項目ごと全部このページを用意しました。ですので、どこのページで自分が、どこのもので自分は見たいなと思ってもそのページが用意されておりますし、そこでクリックすると、先ほどセンターの第2ステージであれば第2ステージのところへ飛ぶようになっています。これが育成指標と、あとは今工事中ですけど養護教諭、栄養教諭の育成指標にもいきます。当然校長の指標もあり

まして、これが校長指標ですけれども、これで例えばここへ校長として目指す姿は、先ほどと同じような作りでこういうものを今山梨としては目指しています。さらに、校長指標に戻りますが、今回の改定で非常にマネジメント力を重視していますので、まずは大きくマネジメント力、アセスメント力、ファシリテーション力、この中でもちょっと自分はアセスメント力を見たいなということであればそのページがまた用意されているということで、当然ここで先ほどのように、じゃあここで研修がどこがどうなんだと言えば、研修がここで、アセスメント力では104番の研修が用意されているというふうに見ていただければと思います。こんなふうにリンクを張っております。こんなページを用意。さらに先ほどガイドにありましたけれど、活用ガイドの具体的な活用画面とか研修履歴のようなどころについては、例えば具体的な活用画面。自己目標の設定や評価の、これは自己観察書の作成において、これは校長先生方は特にまた参考になるかと思っておりますけれども、これを使ってぜひ先生方と面談をお願いしたいなというところもありますし、または研修履歴があったと思います。これはセンターの今回新しい研修履歴ですけれども、センターの研修履歴で管理職面談をこういうふうにやってみてくださいというふうなページも作ってみました。さらに総合教育センターのホームページのリンクや、または総合教育センターの研修一覧というのが出ていますね。例えば、この研修一覧というのをクリックしますと、先ほど見ていただいたものの後ろのほうにこれと同じものを用意してあるんですが、これは第1ステージ、第2ステージ、第3ステージで、それぞれセンターや本庁の各課が用意している研修が、どういうふうに関わっているかということがこの表でわかりますので、校長先生が面談のときに先生方に、じゃあ先生方、こういうふうな研修はどうでしょうかということを話の中でぜひこれを基に面談をしていただけるんじゃないかなというところにもリンクを張っておきました。ちょっとこの中には先生方が希望しても研修を受けられないものもあるので、ちょっと精査をしながら見直しをしていきたいと思っています。こういうふうにセンターの研修等もリンクを張っておきました。

こんなふうに一応この活用ガイドのこれが概要なんですけれども作りまして、ぜひ先生方、管理職の先生方も含めてですけれどもご活用いただいて、ご意見をまたいただきながら、随時これ更新できるようになっていますので、更新をしながらいいものにしていきたいなと思っていますが、なにぶん皆様方のイメージとこれが合っているのかどうかというところが、非常に本日ご意見いただきたいところですので、もう少し工夫の余地がこの点であるのではないかと、そういうふうな厳しいご意見をお待ちしておりますので、ぜひお願いしたいと思っています。

お手元にある資料は先ほどお見せしたもののすべてのページがありますので、よろしくお願いしたいと思っています。

すみません、以上です。

○議長

はい、ありがとうございました。ちなみに、リリース予定というか、今後の予定はどういうふうになっていますでしょうか。

○事務局

本日ご意見いただいたものをまた反映させ、さらに少しモニターとして先生方に見ていただきながら、早いうちにとしかまだちょっと言えないんですけども、年度末を待たずに完成しているところだけでもアップしていきたいなと思っています。

○議長

ここまでせつかく作られているので、随時改定しながらでもリリースしちゃっていいんじゃないかなとも思います。時期のことも含めて、幅広にこの活用ガイドの活用の仕方などについて先生方ご意見があればお願いしたいと思いますが、いかがでございましょうか。

はい、委員。

○委員

このシステムを作るのに事務局が相当苦勞したんだろうなと思います。本当に素晴らしいセンスと出来であるというのが率直な感想です。この改定のポイントにもありますが、最終的にカギを握るのは校長のマネジメント力の強化だと思うんですね、教育を取り巻く状況、求められるものが明確にわかりやすく記述されていて、本当に勉強になります。だから、まずはこれを校長が読んで理解すること。そして理解したことを自分の学校のグラウンドデザインに落とし込むこと、さらに面談等を通してあなたはこういう目的でこのような研修をしてもらいたい、というような具体的なアドバイスもできる素晴らしいシステムであると感じています。また、この校長の部分について言えば、まったくそのとおりだなと思います。全員がこれを理解したうえで学校経営をしていく。そのことがまさに重要だと考えています。だからなるべく早くこういうものをきちっと現場に周知、紹介していくことは私も賛成です。

ただ1点だけ要望として、先ほど言わせていただいた、教員の評価の部分でもうちょっとわかりやすく表記できるとよいと思います。

○議長

はい。委員

○委員

学習指導の中で必要性、妥当性を認められないものは見直していく。ここの部分はちょっと具体的ではないので、むしろこういう研修を進める、必要だと。そしてそこをクリックすると、それぞれステージによってこういう教科であれば、専門性であればこういう研

修がある。そういうところにリンクしていくと、もっともっと使いやすくなるのかなと思っていました。

○議長

ありがとうございます。ほかに先生方、いかがでございましょうか。はい、委員。

○委員

すばらしいガイドができたなというふうに、本当に大変な労力が掛かっているなというふうに思いました。ご苦労さまです。大変見やすいというふうに思っています。こんないものができたので、やはり使ってもらおう工夫というのが次はあるのかなというふうに思っております。先ほどのお話の中でも使う工夫というのが出てきたのですけれども、できればこの研修を受講する方が事前にこのガイドをもう1回見てもらって、自分が受ける研修はこういうことが目指されているんだと、もう1回確認するような工夫をされるといいのかな。それを課題にしておくとかというようなことですね。それと、あとは研修がこの活用ガイドに書かれていることと合致しているかということも次には必要になってくるのかなというふうに思っております。ありがとうございます。

以上です。

○議長

ありがとうございました。ほかにいかがでしょうか。はい、委員。

○委員

私も委員と同じように、研修、おそらく先生方が見るときは育成指標のどこという見方もあるんですけども、研修とリンクさせて、研修を見たときに何なのかという、背景ですよね。そっちのほうが見たいのかなと思うんですよね。自分の研修、初めはたぶんセンターの一覧は研修で大体漠然と見るんですよね、おそらく、先生方は。一番大きな紙が配られるので、それを見るんですよ。だからその見るのがどういう背景かというのをやっぱり把握したうえで研修を受けていただくと、また違ってくるのかなと思うので、ちょっと難しいかもしれないですけど、その辺のところですよね。そこはいいのかなと。当然これ素晴らしいものです。これ大変だったと思うんです。だからそれはもう敬意を表したうえで言うんですけども、そういうものが必要だなと。

あとは表紙も字がちょっと多いので、当然あとのほうはいいですよ、いろんな細かい言葉。最初のこのガイドの入り口のところですね、ガイドの作成にあたりとか、この辺の見方とか、この辺はもう少し字の情報が入ってこないようにすると、すんなり入りやすいかなと思います。たくさん説明して、丁寧に説明したいという気持ちはわかるんですが、ただガイドなので最初はずっと行けるように、例えばクローズアップをその分だけしてあ

とはほかすとか。そういうふうなことをしていったほうが、もう少しすつと行くのかなと。すごいものだと思います。せつかくなので、そういう入りの部分ですね。そしてガイドのガイドですね。ガイドの見方。これをもう少し、やっぱり上の字ももう少し、校長指標というふうに書いただけでもわかるんじゃないかと思ったりするので、そういうアイコン的なところをもう少しすればもっといいのかなと思います。

以上です。

○議長

ありがとうございます。リリース時期、この活用する時期についてはいかがですか。

○委員

その辺はもうやったうえで、いろいろ整合性を見たうえで、研修等ですね。ごたごたしないようにですね。

○議長

わかりました。現場が混乱しないようにということですね。ありがとうございます。

ほかにはいかがでしょうか。先生方には今にもぜひ随時ご意見を賜りたいと思っていますので、この会に限らずご指摘いただければというふうに思います。

ほかによろしいでしょうか。委員、どうぞ。

○委員

この間の会議から短時間でここまでのが今日出てくるとは、昨日資料をちょっと見させていただきましたが本当に驚きました。先ほど委員がおっしゃいましたけれども、校長先生方にぜひこのところをしっかりと校長会等で取り組んでいただきたいなと思いました。蕪崎市は校長会で今年度の改定の指標を出して、校長先生方に理解していただくようにということ、あえて4月の校長会でお話をしたんですけれども、今度このように活用できるということですので、これをぜひ校長先生方に校長会のほうで周知というか、研修としていただければありがたいなと思います。どうしてかと言いますと、学校は校長先生の姿勢で決まります。学校の教育活動もそうですし、先生方に対することもそうですし、すべて校長先生のマネジメント力、それからアセスメント力とファシリテーション力ということで、これが本当に1番に必要なと思います。ぜひ校長会でも研修として取り上げていただいて、そしてすべての学校でこれに沿って行ければと思います。よろしく願います。

○議長

ありがとうございます。

ぜひ有効に活用できるようにということで、事務局で苦勞したことをご評価いただき、本当にありがとうございます。ただ、もっとよりよくしていただくためにということでのご意見でございますので、ぜひ引き続き厳しいご意見も賜りたいというふうに思いますが。

事務局のほうから今までのご意見を含めまして、あと何かありますか。委員、何かございますか。

○委員

大丈夫です。イメージぴったりでした。

○議長

ありがとうございます。

○委員

よく飛んでわかりやすいと思います。これリンクが付いているから、ものすごく次にどこに行くか。

○議長

そういう意味で先ほど委員もご示唆があった見せ方とか、そういったところをぜひまた工夫していきたいと思ひますし、今いろいろ先生方からいただいたご意見を踏まえまして、ちょっと事務局から対応をお願いします。

○事務局

あの、霧が晴れたような、そんな思いであります。委員の皆様からいただいた温かいお言葉、非常に私正直涙が出る思いでした。ありがとうございます。私というか、これを作ったチームにまたこれを伝えまして、さらによりよいものにしていきたいなど。またリリース時期につきましては、やはり整合性というのが非常に重要だと思いますので、センターの研修等ももう一度確認をさせていただきまして、リリースがゴールではないと思ひます。そのあとが大切だと思いますので、リリースがスタート時点というふうな捉えでいきたいと思ひますので、ぜひまた今後もお協力をお願いしたいと思ひます。ありがとうございます。

○議長

はい、ありがとうございます。

それでは、最後にその他に移らせていただきますが、本日委員からご案内いただくための資料をいただいております。山梨大学の事業についてご紹介をお願いします。

○委員

よろしく申し上げます。様式1という黒と青の字の詰まった資料をご覧ください。

こちらは文科省のほうが免許更新講習が廃止されて、その後継版の講習、研修に補助金を出しますので、ぜひ構築してくださいということが去年から補助事業というのが行われています。その中の1つで、新たな教師の学びに対応したオンライン研修コンテンツ開発事業というものがあまして、こちらに山梨大学教員実践センターが応募したところ今回通りまして、採択されましたというご報告になります。総額が450万円の事業になりまして、3分の2が文科省の補助金、305万円が付きました。どんなことをするかということになるんですが、研修ですね。先ほど話題になりました総合教育センターで行っているような研修において、オンライン動画で見られるものを提供してはどうかというものです。合わせて県内だけではなく、文科省が開発して4月からスタートさせるという研修プラットフォームにも乗るものです。相乗りになります。大学としては無料でこのオンライン研修コンテンツを提供したいというふうに思っています。中身はICT活用です。個別最適な学びと協働的な学びを実現するためのICT活用をするための授業づくりの研修が受けられるというもので、1コマの動画は約15分。大変短くしてあります。それを10本作ります。内容を変えて10本です。それぞれ連続性があるようなものです。基礎編のほうは理論編ですね。個別最適な学びとか協働的な学びというのはあまりまだ浸透していないので、その辺の理論の話であったり、特にICT活用になかなか踏み出せない先生方に対して、ちょっとICT活用って何のためにするのかなどという、その意義のところも含めまして、実際に子供たちの声も動画の中で見ていただく中で、やっぱりICT活用をやってみてもよさそう、ちょっとやってみようかなと思えるような動画を作ろうとしております。動画は静止画像ではなく、先生方が研修会場に行くことなく、隙間時間にちょっと楽しく見れるような工夫をしたいと思っております。テレビ制作会社に動画作成に入ってもらいまして、テロップを入れたり、何かちょっとBGMを流したり、そういうような工夫をしまして、途中で消されないように、早送りさせられないような、最後まで見ていただけるようなコンテンツを作りたいというふうに思っております。こちら無料で提供いたしますので、ちょっと内容につきましては小学校、中学校、特別支援学校が主な対象になりまして、残念ながら高校まではちょっと手が及ばなかったんですけども、義務と特別支援学校の研修で使っていただいたり、15分ですので校内研なんかのちょっと話題提供で見ていただいて、そこからディスカッション始めるというような使い方、いろんな使い方ができるというふうに思っております。それで1月末にこの動画が完成するようということになっており、今急ピッチで進めているところです。情報教育の専門家の三井先生が全面的に監修をして、熱い思いをこれに乗せるようですので、ぜひご利用いただければということと。総合センターの研修にぜひこちらを組み込んでいただきたいというお願い。そして活用ガイドをクリックしていくと、これも出てくるという、この度お願いできればというふうに思います。どうぞよろしくお願いたします。

○議長

はい、ご案内ありがとうございます。こちらのほうは今ご紹介いただきましたので、いろいろまた連携を取らせていただきたいというふうに思いますので、ぜひよろしく願いいたします。せっかくですので、事業に関してのご質問、何かございますか。

○委員

高校の、膨大な科目のある高校の予定というのは・・・。

○委員

これ、なるべく各教科というふうにするとうと10本までは対応できなかったもので、教科色は消しております。なので小中特の内容にはなっているんですが、ICTを活用するところのところは高校もあまり変わらないところもあると思いますので、そういったところで、もしご活用いただければというふうに思っております。

○議長

ありがとうございます。よくわかりました。それでは参考にさせていただきたいと思えます。以上で私が進行させていただく内容については終了させていただきたいと思えます。

長時間にわたりましてご協議いただきましてありがとうございます。進行にお返しします。

○司会

次回協議会（第3回）についての連絡

閉会